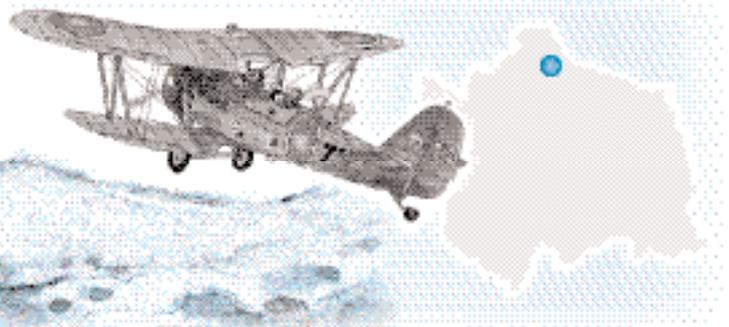


予科練 平和記念館だより



役場2階企画課内に予科練平和記念館整備推進室が発足しました。推進室では、予科練や加軍に関する資料や写真を集めています。ご存じの方はぜひご覧ください。

ま ぶしい日差しの下、海に山にお祭りにと、夏休み中の子どもたちの楽しそうな声が聞こえる季節になりました。また一方で、8月は広島、長崎に原子爆弾が投下され、終戦を迎えた62年前の記憶を新たにする月でもあります。皆さんはいかがお過ごしでしょうか。今月号は、8月に図書館で開催する特別展をご紹介します。

●手紙 思いを伝え、届けるもの

8月4日(土)から26日(日)、図書館2階の視聴覚室およびギャラリーにて、『予科練展Ⅱ 手紙―予科練から、戦場から―』を開催します。戦時中町にあった霞ヶ浦海軍航空隊(現在の茨城大学農学部一帯)や土浦海軍航空隊(現在の陸上自衛隊武器学校一帯)から予科練生が出した手紙や、町在住で海軍航空兵となり、ソロモン海戦に従軍した人がつけていた日記、家族にあてた手紙などを中心に所蔵資料を紹介し、当時の人たちの言葉から、彼らがおかれていた状況や気持ちを感じていただければと企画しました。

「合格しました 全く夢のようです明日より兵隊ですから」
 「今迄淋しい淋しいと言ってお母あさんに心配させましたが、もう少し淋しくありません」
 「私達には今最も重大な役目が双肩にかかっています」
 「なんだか故郷が懐かしくて手紙を書きかけましたら御母さんからの御手紙が届きました」
 「今夜は雲が沢山あるのに、妙に月が綺麗です。霞ヶ浦の波に冴える月影、とても美しいものです」
 「もうそろそろ消灯です。菓子を買ってきてお茶を入れ、菓子と茶とキング(※講談社発行の当時の国民的雑誌)を枕元に置いて寝る時間です。ああ思い出せばたまらん。(中略)しかし私は帝国軍人として、やむなくも一言せねばなりません。あんな生活は不規律で自堕落な生活なりと」
 「早く一人前の軍人となり立派な搭乗員となる覚悟です」
 これらは、15歳から17歳くらいの少年が、親元を離れて集団で予科練生として訓練を受けるなか、家族にあてた



▲甲飛第5期予科練生菊池克久氏が家族にあてた手紙

手紙で語っているものです。短い言葉のなかからも、さまざまな思いを垣間見ることができます。当時、軍隊では『検閲』といって内容を調べられてからでないといふ手紙を出せませんでした。検閲を受けずに手紙を出そうと、外出の際に手紙を投かんした事が明らかとなつて、厳しい制裁を受けた予科練生もいたという話もあります。

インターネットが普及した現在においては、自分の気持ちや考えを伝えるのに電子メールを使用することも多くなりました。すぐに送ることができて返事もすぐ届くので、とても便利で楽しいものです。

しかし、読み手の顔を思い浮かべながら言葉を選んで一文字一文字したため、それが届いて親しい人の香りをのせ

て返事が返ってくる、その喜びと待ち遠しさは格別です。世間と隔離されて訓練を受けている予科練生にとって、故郷からの便りは自分を励まし、勇気づけてくれる大切な宝物だったかもしれません。

手紙の文字の筆遣い、強弱をなぞると、書き手の気持ちや息遣いまでが伝わってくるような気がします。ある人は予科練で、ある人は郷里で、またある人は遠い戦場で、親しい人に便りを書き、返事を待っていたことでしょうか。いろいろな思いを乗せて運ばれた手紙の数々。そしてそれを書いた人たちの思い。『予科練展Ⅱ 手紙―予科練から、戦場から―』でどうぞご覧下さい。

**『予科練展Ⅱ 手紙
―予科練から、戦場から―』**
 (入場無料)
 期 日 8月4日(土)～26日(日)
 ※月曜日を除く
 時 間 午前9時～午後5時
 場 所 図書館2階視聴覚室および
 ギャラリー